

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キアンコウ

学名 *Lophius litulon*

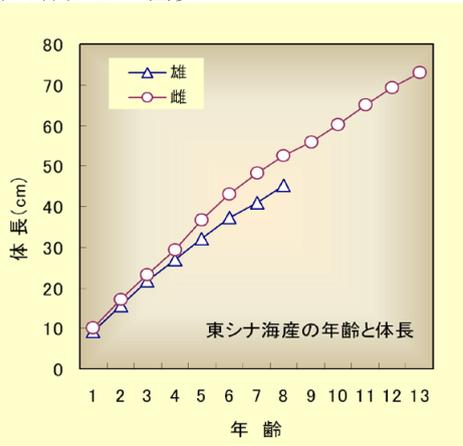
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
 成熟開始年齢: 雄5歳、雌6歳(東シナ海産に関する知見)
 産卵期・産卵場: 5~7月、産卵場は不明
 索餌期・索餌場: 周年、水深30~400m
 食性: 魚類、頭足類
 捕食者: 若齢個体がミズウオの胃内容物として出現

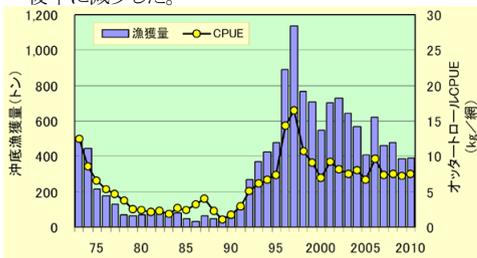


漁業の特徴

沖合底びき網漁業(沖底)、小型底びき網漁業(小底)を主体に、底刺網漁業や定置網漁業でも漁獲されている。しかし、漁業種類別水揚資料の整理は十分ではなく、青森~茨城の全県で漁業種類別漁獲量が把握できるのは2000年以降である。福島県や茨城県については1990年頃から水揚量が増加したことが報告されている。また、キアンコウの水揚物体長組成から未成魚を主体に漁獲していると推定される。

漁獲の動向

沖底の漁獲成績報告書に基づく漁獲統計資料によると、漁獲量(襟裳西海区を含む数値)は1973年の492トンから1978~1989年には80トン以下の低水準に減少した。1991年以降は漁獲量が急増し、1997年に1,133トンに達した。2005年には410トンに減少、2006年に622トンに増加後、2007、2008年は400トン台、2009年、2010年は300トン台後半に減少した。

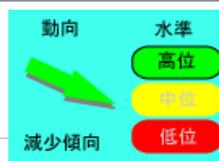


資源評価法

各県調査による漁業種類別の水揚量と、1973年から資料がある沖底漁船の漁獲成績報告書に基づく漁獲量の動向に加え、海区域別漁法別のCPUEの水準などから総合的に資源状態を判断した。

資源状態

沖底による漁獲量は1991年以降急増し、1997年には1,133トンと最高値となった。1998年には減少し、その後300トン台後半~730トン程度で推移している。2003年以降は減少傾向にある。青森~茨城全県合計漁業種類別漁獲量(2000年以降の数値)は、1,100~1,500トンで推移している。2010年は1,140トンと過去2番目に低い値で、全県合計の漁獲量も2003年以降は減少傾向にある。沖合底びき網のCPUEは1970年代とほぼ同じ比較的高い水準にある。従って、資源水準は高位で、資源動向は減少と判断した。



管理方策

現在の資源は高水準ながら近年減少傾向にあると考えられるため、現状の資源水準をこれ以上減少させないことを管理目標とし、現状の漁獲を若干下げを提案する。ABClimitは2008~2010年の漁獲量の平均値に0.9を乗じ、ABCtargetは、さらに0.8を乗じた値とした。単価の低い産卵期(5~7月)における産卵親魚の保護を検討する必要がある。

| | 2012年漁獲量 | 管理基準 | F値 | 漁獲割合 |
|-----------|----------|-----------------|----|------|
| ABClimit | 1,100トン | 0.9Cave3-yr | — | — |
| ABCtarget | 860トン | 0.8・0.9Cave3-yr | — | — |

資源評価のまとめ

- 沖底の漁獲量は1991年に急増、1998年以降に比較的高い水準で安定、2003年以降では減少傾向
- 青森～茨城の漁業種類別漁獲量の合計値(2000年以降の値)は、1,100～1,500トンの高い水準で推移している
- 漁獲物の多くが未成魚であるが、2011年1～3月は少なく、加入が悪い可能性がある

管理方策のまとめ

- 現状の資源水準をこれ以上減少させない
- 成長乱獲を避けることが必要
- 単価の安い産卵期(5～7月)の産卵親魚の保護が必要

執筆者: 伊藤正木・服部 努・成松庸二

資源評価は毎年更新されます。